

## はじめに

東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会（2020 年東京大会）は、新型コロナウイルス感染症の世界的流行のために、1 年後に開催されることになった。新型コロナによる感染拡大は、視覚障害者の日常生活行動や運動パフォーマンス向上に大きな影響を与えている。

新型コロナウイルス感染防止対策では、飛沫感染や接触感染を防ぐために一定の距離を保つ、マスクをつける、物になるべく触れないといったことが重要となる。しかし、視覚障害者は、触覚、聴覚、嗅覚などを重視して行動しているために、様々な不自由を感じている。

視覚障害者のスポーツ支援は、監督、コーチ、トレーナーだけが行うわけではなく、視覚障害者が快適に過ごす日常生活の障壁をどれだけ改善するかが鍵となってくる。

2020 年東京大会の基本コンセプトのうちの 1 つに「多様性と調和」があり、「世界中の人々が多様性と調和の重要性を改めて認識し、共生社会をはぐくむ契機となるような大会とする」としている。特にコロナ禍の時代には、共生社会の実現は大きなテーマの 1 つである。

本書は、視覚障害者スポーツの指導スキルの継承をはかることを目的に、視覚障害者のパラリンピックスポーツ指導に必要な知識や指導実践法を紹介する。執筆に当たっては、スポーツ指導者のみならず、一般の読者を対象に考えて視覚障害者スポーツの啓発、教養書として平易な文章とすることを心がけた。

私たちは、2014 年 4 月より、視覚障害アスリート、視覚障害者スポーツの指導者、競技支援スタッフ、視覚障害教育関係者、眼科医、パラリンピックやアダプテッドスポーツ関係者などが集まり、視覚障害者のパラリンピック競技を中心とした視覚障害者スポーツの情報交換や啓発活動を目的とした会（ブラインドパラスポーツミーティング）を月 1 回開催してきた。

この情報交換会やシンポジウムを通して、視覚障害者のパラリンピアン固定化と高齢化が課題とされ、視覚障害アスリートの発掘、育成、強化の重要性が改めて指摘された。特に、我が国は、パラリンピック・リオデジャネイロ大会では、金メダルを 1 つも獲れなかったため、東京 2020 パラリンピック競技大会に向けて、アスリートの競技力向上の対

策が急務となった。その中でも、視覚障害者スポーツの指導者育成が重要な課題となっている。

視覚障害アスリートの指導に当たっては、水泳、陸上競技、柔道などの競技ごとの指導法に加えて、視覚障害に対する理解も必須である。また、盲学校、視覚特別支援学校における体育指導においても、体育教員が1つの学校に長く勤務できないため、その経験値を伝承する体制が整っていない。しかしながら、視覚障害者スポーツ指導に対する体系化されたテキストや書籍は見当たらないのが現状である。

本書は、①視覚障害アスリートの競技力向上のみならず、②学校体育での視覚障害者の体力向上、③視覚障害者スポーツの啓発につなげることを目指している。

第1章では、視覚障害者と視覚障害者スポーツの理解を目的に、視覚障害者の特徴、視覚障害者スポーツの歴史の変遷、現状と課題などの基礎的事項を取り上げ、第2章では、視覚障害者スポーツ指導に必要な知識を得ることを目的に、視覚障害者スポーツの発達段階別の指導、視覚障害者のパラリンピックにおけるクラス分け、アンチ・ドーピング、栄養、体力・運動特性など指導する上で必要な事項を全般的に取り上げる。第3章では、視覚障害者パラリンピックの競技で実施されるスポーツの内容および指導法について紹介する。最終章では、選手、指導者を中心にした座談会を行い、指導上の課題や解決策について論じる。

本書をもとにした指導によって、①パラリンピックスポーツが向上し、②盲学校などの学校体育では安全で楽しく、③コミュニティースポーツでは、健康の維持増進につながればと思っている。また、本書を読み、視覚障害者スポーツの指導に関心を持つ人が増加するとともに、視覚障害者スポーツにも興味を持ち、アスリートを応援する方が増えることを願っている。

宮本俊和、河合純一